

令和6年7月31日

砺波医師会誌

杏和だより

第220号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時評〕	・巧妙化する特殊詐欺	網谷 茂樹	1
〔活動報告〕			2
〔追悼〕	河合康守先生を偲んで	金井 正信	5
〔富山県医師会JMATに参加して〕		藤井 正則	6
〔散居村〕	・日本遺産検定	澤田 樹佳	7
	・「2024年 ゴールデンウィーク大分旅行」	柴田 祥宏	8
	・現実と向き合う	白石 浩一	9
	・現在の私	杉本 立甫	10
	・「目の聴診」	住田 亮	11
	・『調停』を聞いたことはあるでしょうか？	高木 泰孝	12
	・「となみ夜高祭りに思う」	高瀬 義祥	13
	・近くて遠い	高橋 暢人	14
	・「へえ～って言いたくなること」	高橋三千代	15
〔新入会員紹介〕	……………ものがたり診療所	岩田 嘉文	16
	……………あみたに医院	大倉誓一郎	17
	……………藤井整形外科医院	藤井 正文	18
〔編集後記〕		山田 泰士	19

発行所 砺波市幸町6番4号

公益社団法人 砺波医師会

発行人 砺波医師会長 網谷 茂樹

巧妙化する特殊詐欺

砺波医師会

会長 網谷 茂樹

最近、医療DX推進のため、厚生労働省などの公的機関からのメールもたくさん来るようになりました。以前からのネット通販、医療情報や講演会情報などすべてがメールでくるため1日にチェックする時間が日ごとに長くなってきました。Gメールは迷惑メールフィルターが優秀だと思いすべてのメールを集中させていました。

しかし、今度はGメールが迷惑メールフィルターの定義を変更するとのことで迷惑メールに必要なメールが紛れ込むことになりました。それを探すのに迷惑メールフォルダーを開くと、個人情報を吸い込もうとする迷惑メールの渦の中におちいるはめになりました。この作業の中で被害にあう人が多いのもなんとなく理解できるようになりました。

今度は電話です。仕事も終わり家で気を抜いているといつもは電話に出ないのに何気なく電話に出ると『総務省です通信が使えなくなります、解除したいときは数字の1を』との機械音の案内あり。電話を切ってネットで調べると南砺市の広報で総務省を語る電話に注意してくださいとされていました。

情報の選択が重要であることは十分注意していてもふっと気を抜いた瞬間に襲ってくる特殊詐欺攻撃はあまりにも数が多く高齢になればなるほどだまされる頻度は多くなると思われました。

今、急速に推し進められている医療DXも連絡などがメールで配信される機会が多く注意しないと詐欺メールの沼にはまり込むことも予想されます。賢明な医師会員の皆様ですから問題はないと思いますが、老婆心ながら書いてみた次第です。

笑話ですが私は電話で数字の1を反射的に押してしまいました。1を押すと転送されて海外にいる日本人が電話に出ます。



活動報告

(令和5年12月～令和6年6月まで)

令和5年12月

- 11日 第11回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 14日 砺波地域医療推進対策協議会 心血管疾患部会
- 19日 砺波圏域地域リハビリテーション連絡協議会
- 20日 砺波地域災害医療連携会議
- 22日 富山県医療審議会及び富山県医療審議会地域医療構想部会並びに
富山県医療対策協議会
- 26日 胃内視鏡読影委員会

令和6年1月

- 3、5、9、12、16、
19、23、26、30日 富山県医師会災害対策本部拡大会議
- 5日 第12回理事会
- 15日 第13回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 18日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 19日 在宅医療介護支援巡回講座
- 20日 令和6年度砺波准看護学院一般入試
砺波市在宅医療・介護連携推進研修会
- 24日 砺波准看護学院 令和6年度一般入試合否判定会議・運営理事会
- 26日 在宅医療支援講座
胃内視鏡読影委員会
- 28～31日 令和6年能登半島地震 JMAT派遣
- 30日 砺波准看護学院入試合格発表

令和6年2月

- 6、13日 富山県医師会災害対策本部拡大会議
- 17日 令和6年度砺波准看護学院一般入試（2次募集）
砺波准看護学院 令和6年度一般入試（2次募集） 合否判定会議
- 19日 令和5年度第2回臨時社員総会
第14回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 28日 令和5年度砺波厚生センター地域・職域連携推進協議会

令和6年3月

- 4日 胃内視鏡読影委員会
- 5日 県・郡市医師会協議会
- 6日 令和5年第4回市立砺波総合病院地域医療支援病院運営委員会
- 7日 第58回砺波准看護学院卒業式
- 11日 第15回理事会
- 16日 令和6年度砺波准看護学院一般入試（3次募集）
砺波准看護学院 令和6年度一般入試（3次募集） 合否判定会議
- 19日 令和5年度「地域から医療・福祉を考える会」
- 21日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 25日 令和5年度第3回臨時社員総会
- 28日 第210回富山県医師会臨時代議員会
富山県医療審議会及び富山県医療審議会地域医療構想部会並びに
富山県医療対策協議会

令和6年4月

- 8日 第1回理事会
- 11日 第60回砺波准看護学院入学式
- 18日 地域医療・保健事業懇談会

令和6年5月

- 9日 令和6年度第1回広報委員会
- 13日 第2回理事会
- 16日 特定健康診査等事務説明会
砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 23日 監事会
- 29日 胃内視鏡読影委員会

令和6年6月

- 4日 県・郡市医師会協議会
- 10日 第3回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
富山県在宅医療支援センター運営協議会
- 24日 令和6年度定例社員総会
- 27日 第211回富山県医師会定例代議員会

河合康守先生を偲んで

力耕会 金井医院

金井 正 信

河合康守先生は旧福野町のお生まれで昭和 34 年金沢大学医学部を卒業されました（私の 19 年先輩です）。卒業後は細菌学教室に出入りしていたと、本人からお伺いしました。そののち砺波厚生病院（現砺波総合病院）に耳鼻科医師として勤務された後、現在の地にて耳鼻咽喉科医院を開院されました。医師会活動に積極的に参加され旧砺波医師会のオピニオンリーダーとして理事、副会長、さらに会長を歴任されました。

また、地域の活動にも熱心で体育関連では昭和 55 年より砺波市野球連盟の会長を務められ、平成 14 年よりは砺波市体育協会の会長として様々な体協所属団体の意見の取りまとめに当たられました。子供たちの教育と健康にかかわる仕事も多く、市内のすべての小中学校の耳鼻科担当の校医を務められたほか、地元の出町小学校の教育振興会長として、学校現場に地元民の声を届ける役割を果たされました。このような功績が認められ、平成 24 年には、瑞宝双光章を受章されました。最近では、出町地区老人会長、砺波市老人クラブ連合会会長など務められました。勲章を受章される少し前にたまたま宴席で私が「婦人会長以外は全部してますね」と笑って話しかけたところ、「いわれるとせんなんもんだよ」真面目な顔でご返事をいただき大変恐縮したことを覚えています。

昨年は砺波市野球連盟の設立 70 周年に当たりましたが、11 月の祝賀会の直後に天寿を全うされました。功労者としての感謝状は息子さんが受け取っておられました。

いろいろな役職を断りもせず淡々とこなされました。河合先輩は、医療活動はもとより、さまざまな役職をとおして、患者さんとなって医院を支えてくれた人たちへの恩返しは充分に果たされました。

太く、長く駆け抜けられました。ご冥福をお祈り申し上げます。



富山県医師会 J M A T に参加して

藤井整形外科医院

藤 井 正 則

砺波医師会は、今回の能登半島地震に際して富山県医師会からの要請に基づき、砺波医師会初の J M A T 隊を編成しました。1月28日～31日の間、現地で実際に活動してきましたので、今後の活動の糧となりますよう、注意点や反省点を述べたいと思います。

装備品の確認は出発前に必ず行う事

先遣隊との引継ぎで、現地での活動状況や注意点などの説明を受けた後、装備品の載せ替え作業が最後にあります。県医師会から装備品一覧表が事前に渡されておりましたので、全て装備されているものと思い込み、宿泊地に向かいました。宿泊地に到着後、装備品を確認したところ、血圧計、聴診器、パルスオキシメーター等が無いことに気づき、慌てて砺波まで引き返しました。事前確認が必要であったと猛省しています。

J M A T として活動出来る技量を指揮所統括責任者に明確に伝える事

日本医師会の J M A T は、軽装、標準、重装と3段階に分けられており、我々砺波隊は標準 J M A T という位置付けでした。初めての体験であり、何も分からず指揮所に向かい、いきなり指揮所統括業務を要請されました。全国から来る J M A T 隊の派遣先を割り振りし、帰還した J M A T 隊から報告された現地の状況や要望事項を県庁にある総合統括本部に連絡するという業務です。J M A T 隊として出来る技量を明確に伝える事。そして統括業務の要請もあり得る事を念頭に置き、日頃からの準備が必要であると痛感しました。

先方に我々の素性と訪問した理由を説明してから活動する事

テレビのバラエティー番組で、タレントやレポーターが「今からアポとりマ〜ス」と言いながら店に入り、「アポとれましたア〜。OKデ〜ス」と言って店から出てくるシーンを何回も見たことがあると思います。身近にしっかりとしたお手本があるのに、我々はそれをしませんでした。被災者を早く支援したいという気持ちが先立ち、いきなり全員で入ろうとしたのです。先方の方は、何事が起きたのかと、ポカンとするばかりです。先に医師か事務方が1人でアポイントメントを取り、事情を説明してから、数人で活動するという事が基本でした。更に、被災地では支援隊やボランティアに紛れ込んで、悪徳業者や泥棒が横行しており、避難所などで門前払いされないためにも医師資格証は勿論ですが、素性を明確にするための名刺は必須アイテムです。

以上、J M A T 隊として初めて被災地を訪れ、誰も教えてくれないような初歩的なミスを重ねましたので、今後の参考になれば幸いです。天災は忘れた頃にやって来ます。今回の教訓を生かす上でも、医療支援を含めた防災を文化として継承する事が大切ではなかろうかと思う今日この頃です。

日本遺産検定

さわだクリニック

澤田樹佳

医師として働くようになってから、まとまった自由時間がとれなかったせいか「資格取得」が趣味になりました。

遠出する必要もありませんし、勉強中であっても急な呼び出しに対応もできました。

漢字検定や英語検定も働くようになってから取得し、アロマセラピー、船舶、狩猟・猟銃、簿記、ファイナンシャルプランナーなどジャンルを問わず、興味を持った資格は片っ端から取得しました。

今年、興味を持った資格は「日本遺産検定」。

見慣れない方も多いと思いますが、それもそのはず、この資格は昨年、文化庁が立ち上げたばかりの新しい資格で、今年5月にようやく第3回の試験が行われました。そしてまだ3級しかなく、今年2級や1級が始まるとされています。

公式テキストも2月13日（日本遺産、の語呂あわせ）に発売されたばかりとあっては受験しない理由がありません。

現在、日本遺産に認定されているのは104のストーリーです。

ストーリー、と書きましたが、世界遺産は不動産が認定されているのに対し、日本遺産は歴史的背景などを加味したストーリーに重点が置かれているのが特徴です。

一番近いところでは、高岡の町民文化だったり、井波の宮大工のストーリーが認定されています。

試験勉強は、高校の日本史に文学史や地理を合わせたような内容を覚えます。高校生の頃に苦手意識の強かった日本史の勉強を今になってすることになるとは思いもよりませんでした。

勉強の甲斐もあって、無事に日本遺産検定3級に合格しました。しかも合格発表は6月3日、僕の誕生日でした。二重で嬉しい誕生日になりました。合格すると各地の日本遺産で「日本遺産ソムリエ」として活動できるそうです。

勤務医の頃より自由な時間が増え、時期的にも旅行がしやすくなっています。

そんな自分のニーズにぴったりな資格を生かし、数多くの日本遺産を巡るのが今後の目標です。

ご興味のある方には、私、ソムリエが日本遺産のテイスティングもして差し上げます。

「2024年 ゴールデンウィーク大分旅行」

庄川しばたクリニック

柴田 祥 宏

こんにちは、庄川しばたクリニック 柴田祥宏です。今年は、新型コロナウイルス感染症が5類移行後初のゴールデンウィークとして、妻の故郷である大分へ旅行しました。

今回JRで旅をしました。新幹線敦賀延伸後、初めて敦賀駅を利用しました。巨大要塞といわれる駅は巨大で、長いエスカレータがあり、乗り換え8分では、敦賀駅を満喫することは難しく、あわただしく駅を通りすぎました。次の難関は、新大阪駅です。GW後半初日であったため在来線から新幹線への自動改札も20mほどの行列となり、自動改札を抜けるために5～10分ほどかかりました。「のぞみ」乗り継ぎもギリギリと冷や汗をかきました。その後JR小倉駅に到着。特急ソニックに乗車し中津駅まで行きました。特急は大揺れで妻は電車酔いを起こしてしまいました。最初に義両親にご挨拶し、その後瀬戸内海国立公園内にある高崎山の猿を見ました。その後別府市の「地獄めぐり」をしました。別府市は街の至る所に、微細な霧状の水滴になった「湯けむり」が見られます。まさに白い湯けむりが、空中高く立ち昇りかなり遠方からも明瞭に見えました。

再度中津にもどりました。中津市は城下町であり、福澤諭吉旧居、中津城などの文化財、景勝地の耶馬溪があります。今回は福澤諭吉旧居を見学しました。そこは、福澤諭吉が幼少年期を過ごした旧居です。1歳6か月の時、父の死去により大坂から帰藩し、19歳まで中津で過ごしたとのこと。隣には福澤記念館があり「学問のすゝめ」の原本が展示してありました。

以上がわたくしの2024年大分旅行でした。皆様も非日常を体験できる旅行を楽しんでみてください。



現実と向き合う

市立砺波総合病院 循環器内科

白石 浩一

5年前の4月、私は自らの不注意による事故で頸髄以下の機能が一時ほぼ完全に失われ生命の危機に直面しました。幸い廣田副院長先生はじめ多くのスタッフの皆様のご尽力で一命をとりとめ、感謝してもしきれない思いです。寝たきりは脱したものの長期入院と休職を余儀なくされ、良くて一生車椅子生活を覚悟しました。ところがさらに幸運なことに何とか歩行可能となり事故から1年後、業務に格別なご配慮をいただいたうえで元の職場に復職させていただくことができました。とはいえ、その後この4年間は苦悩の連続の日々でした。贅沢な悩みであることは承知しているのですが、思い描いていたほどには歩行がなかなか改善しない。全身の痙縮や痺れ・疼痛のために移動や日常動作に苦痛を伴う。それらが当然のように仕事はもとよりあらゆる思考やパフォーマンスに影響し、体調の悪化でさらに不安になる…。ここまで自分なりにできうる限り様々な方策を試みてきましたが、良くて現状維持がやっとの状況、後退している要素も少なからずあります。

この原稿の依頼をいただいてから、10年以上前に読んだ米国の精神科医ヘンリー・クラウドの著書『インテグリティ 現実が突きつける要求に応える勇気』の訳本を、先日再び手に取ってみました。人間性が仕事の成果に及ぼす影響と人間性の成長のために機能させるべき資質について書かれています。その中で彼は、人間性は誠実さや倫理観のみを指すのではなく、人間性とは「現実が突きつける要求に応える能力」のことである、と定義していました。

ようやく5年か、まだ5年と捉えるか。これから先、あらためてこの現実と向き合い、逆境を受け止め、問題を解決するための、自身の人間性の成長が問われているのではないかと感じました。



現在の私

ケアポート庄川

杉本立甫

私は今年 77 歳になりました。何をして過ごしているかと言いますと 1 週間のうち月、水、金曜日は朝からケアポート庄川の施設長として仕事をしています。火、木曜日は午前中金沢聖霊総合病院で外来をして、昼食をとった後ケアポート庄川にきて仕事をしています。あと月 1 回介護保険の審査に市町村会館までと、月 2 回協会けんぽで保険の審査の相談を受けに行っています。

ケアポート庄川の仕事はハンコ押しと主に入所者の管理ですが高齢者のみですのでトラブルがよく発生します。そのため携帯電話は常に持って移動しています。よくあるケースとしては徐々に食事がとれなくなり、食事の形を変えても入らなくなり、水分も飲めなくなった時苦痛の訴えもなく、静かにされている場合病院に紹介はせず、点滴のみで経過を見ています。多い疾患としては尿路感染症が多いと思います。女性が多いこととバルーンが入っている人が何人かいるのが原因と思っています。それでもこの仕事は比較的楽だと思っています。

聖霊病院の週 2 回の外来は金沢では 7 時 30 分を過ぎると車は渋滞で時間が非常にかかります。そのためこれまでは砺波を 6 時 30 分ころ出ていました。国道 359 号が 1 月の地震で通ることができなくなり、現在は小矢部から森本まで高速を使って通っています。砺波、金沢、庄川、砺波と車で走ると 85km ほどになります。診療をしてこれだけ走ると車好きの私でも最近では疲れがひどくなっていますので。そろそろ・・・と思っているところです。

月 3 回の富山は介護保険の審査委員が再来年の 3 月までであり。それまではやっても良いか考えています。これが現在の私です。



「目の聴診」

住田小児科医院

住 田 亮

先日、小児科開講 100 周年の記念祝賀会に参加しました。歴代教授のプロフィールなどが盛りだくさんの内容でしたが聴いているうちに谷口教授の診察風景を思い出しました。

数十年前の大学病院外来は当然のように手書き紙カルテで教授・助教授の診察には医局員が2～3人付いてベシュライバーをしていました。初診の患者は若手医局員が問診をとってカルテに記載し、そのカルテが教授診察に回ります。自分が問診をとった患者を谷口先生がどう診られるのか興味半分、不安半分で診察室に入ります。患者さんやお母さんに質問しながら顔や動作をしばらく観察し、それからおもむろに聴診器を当てます。胸部・背部・腹部を聴診します。ここまでは普通の（と言ってもすごく丁寧な）診察ですがさらに頸部、そして目に聴診器を当てます。初めてそれを見たときは一瞬遊んでいるのか？と思いましたが教授の顔は真剣なまます。次に診察台に移りこれまた丁寧な触診。浅く、深く、患者の呼吸に合わせて納得がいくまで触れ、ポイントごとに打診を入れ、そして股部にも聴診器を当てます。最後に四肢などを診て終了となるのですがこの間ブツブツ独り言のように所見を言われるのでメモ帳片手に必死に聴きとりますがとても全ては記載できず、後でアナムネ共々訂正が入ります。しばらく無言で思案されてから処方を書くか検査の指示を出してお母さんに説明して診察は終了。後で上級医にあの聴診の意味を尋ねたところ、AVMなど頭蓋内の異常を念頭に置いて頸部や目（眼動脈を伝わってくる雑音）を聴診し、ケトーシスや腹部の血管異常などを考えて大腿動脈を聴診すること。私にとっては参考になるとかならんとかというレベルではなく、何か厳かな儀式のようにすら感じたものです。

もう一つ忘れられない教授回診でのエピソードがあります。心房中隔欠損のため心カテ検査入院の患者の診察でした。心カテの検査入院なぞ病棟主治医にとっては楽勝症例です。なんせ外来で診断は付いていますし、チャチャッと型通りカルテを書いて入室時間に合わせて指示出ししたら一丁上がり。もちろん何の不安もなく教授回診に臨みます。ベッドサイドでは主治医がこれまた型どおりにデータを示してプレゼンし、滞りなく回診は終わらなかつた。丁寧に聴診などを済まされた教授はもう一度胸写を見直し、首をかしげながら「ホントにASDかいや・・・」とぼそっと呟き、軽くため息をついて次の患者に向かいます。残された主治医は慌てて循環器チームのトップに報告、再度エコーし直したら欠損孔は存在せず、患者さんはすぐ退院。先入観なしに患者を診る大切さを強烈に感じた瞬間でした。もう一度あの診察に立ち会いたいと今になって強く思います。

『調停』を聞いたことはあるでしょうか？

市立砺波総合病院 整形外科

高木 泰孝

私は2006年4月1日より民事調停委員（富山地方裁判所及び高岡簡易裁判所）を務めています。当時、富山県医師会から富山県整形外科医会に委員の選定を依頼され、呉東と呉西において各1名の整形外科医が任命されたと聞いています。

調停委員は弁護士や司法書士、税理士、公務員、教師、一般企業退職者や専業主婦などさまざまな分野の経験者の中から最高裁判所が任命します。富山県の調停委員の人数は200人を超えていると思います。呉西地区の医師は私のみと思います。

調停には民事調停と家事調停があります。民事調停とは、家事事件・労働事件等を除く一般的な民事事件において、裁判官及び調停委員により構成される調停委員会が、紛争当事者双方の言い分を聞き、仲介・斡旋をすることにより、紛争当事者による自主的解決を図ろうとする制度です。なお家事調停は、夫婦、親子、親族などの間の揉め事について、裁判官と民間から選ばれた調停委員が間に入り、非公開の場で、それぞれから言い分をよく聴きながら、話し合いによって適切で妥当な解決を目指す手続です。

民事調停は、裁判官一人と民事調停委員二人が調停委員会を組織して行われます。民事調停委員は、弁護士となる資格・専門的知識経験を有する者のほか、医学や建築といった専門的知識が必要とされる紛争において、それらの専門的知識を有する者が意見を述べる必要があります。

私は医療関係の調停についての専門的知識を述べるために選定されたと思います。実際、医療関係の民事調停の事案のみ呼ばれて、富山地方裁判所や高岡簡易裁判所で民事調停を務めています。調停委員は多くの場合当事者の言い分を聞いた上で和解案を提示しますが、その和解案を受入れるかどうかは当事者の自由です。

いままで様々な事案を担当し、病院勤務では分からない事情などを知り、他の民事調停委員や裁判官・弁護士など普段会話することができない方々とお話することができ、非常に貴重な経験となっています。



「となみ夜高祭りに思う」

ものがたり診療所

高瀬 義 祥

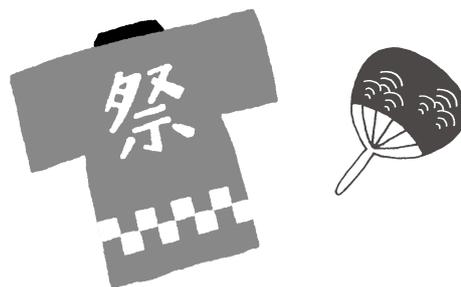
今年も6月14、15日にとなみ夜高祭りが開催されました。私が住む広上町も素晴らしい行燈で、毎年の事ながら、感動しました。子育てを理由に製作にはあまり参加できませんでしたが、製作自体も楽しかった（大変だった）です。

実は去年の今頃は砺波総合病院の整形外科病棟にいました。

突き合わせ時に練り棒（太い丸太です）が右膝の上に乗かってしまって、地面と挟まれるような形で右踵開放骨折を受傷しました。倒れ込み、引きずり出されてゴミを運ぶカートで救急外来まで連れられました。待っている間に足の下に脂肪滴入りの血だまりができていなのを見て、「開放骨折だ。即入院、手術は数日後になるだろうな。」と思いながら、さーっと血の気が引いたのを今でもよく覚えています。仕事は休むことになり、1週間後に予定していた家族との沖縄旅行も行けなくなりました。トホホ。砺波総合で働いていたこともあるので入院中に先生やスタッフさんから声をかけられ恥ずかしかったですが、話す人もあまりいないので元気ももらいました。約3ヶ月におよぶ療養は大変ではありましたが、幸い若かったからか、階段を下りたり、小走りしたりするくらいはできるようになりました。未だに足関節の捻挫のような症状は軽度ありますが、これは付き合っていくものかなと思っています。

去年は踵の骨折だけでなく、様々な病気もしました。骨折復帰2日後に網膜剥離（近眼が強い&家族歴、剥離の既往）、過去の網膜剥離で白内障が始まっていたので両眼内レンズ挿入術、右胸部帯状疱疹、急性腰痛症、CRP 21, WBC 2万まで上昇した急性咽頭炎&リンパ節炎などです。車も直進中に横から発進した車にぶつけられました。今までの人生でこんなにトラブルが起きたことはありませんでした。家族や職場には本当に迷惑をかけました。

今年は鬼門の夜高祭りを無事楽しく終えることができました。このまま大きな怪我や病気がなく、家族（7月に第二子も生まれます）みんな元気で過ごせるよう、願っています。



近くて遠い

高橋外科医院

高橋 暢 人

私は目が悪い。視力が低下したのは小学校からでした。視力回復のトレーニングをする施設に通ったり、器具に頼ったりしたものの眼鏡が必要になるまでさほどかからず、学校では座っている席も前に前にと代わっていきました。今となっては裸眼時代、どのような世界で暮らしていたのか思い出すこともできません。

さらに40歳後半から近くの文字が見えにくく、本など距離を空けないと見えにくくなってきました。スマートホンの文字も見にくくなり、距離をとるとぼやけていた小さな文字自体はクリアにはなりますが、今度は小さすぎて何が書いてあるか分からない。ちょうどよく見える距離、文字サイズが年々限定されてきていて、生活に困るでもなく運転免許更新等に影響があるわけでもないのですが、本当に不便になりました。現在は乱視補正の入った近視用の眼鏡を着用しています。というわけで、しかたなく近くの細かい文字を見る時は眼鏡を外して見ることで何とかやっています。遠近両用眼鏡が必要かなと思いつつ、眼鏡を入手する言わば「儀式」がちょっと煩わしく、なんとかなるうちはなんとかすればいいや…となって今に至っています。ここまでが壮大な前置きです。

毎年農繁期に入る頃など、農業の方や園芸されている方が手の指や時には足に木や石、金属など様々な皮下異物、棘を刺して受診してこられます。これが見えない。見えにくい。抜き取る作業自体は特別なことはないです。わりと垂直に近い感じで真っ直ぐに皮下に侵入したのについてはほとんどが無麻酔で簡単に除去できます。できました、以前は。

今はまず発見しないといけないので懸命に探すのですが、眼鏡では本当は見つけにくいいため裸眼で刺入部に必死に顔を近づけて探すことになります。見えないうえに前傾姿勢での作業は腰にきます。最近は病歴を聞いて棘っぽいとわかると気分が沈むようになりました。肉体の衰えを痛感します。

そういえば父親も晩年、おなじような棘関係の処置では眼鏡を外していたなあと思いましたが、それを見ていた当時せいぜい大変だなーくらいしか思いませんでした。経験しないと本当のつらさは解らないものですね。



「へえ～って言いたくなること」

福光あおい

高橋 三千代

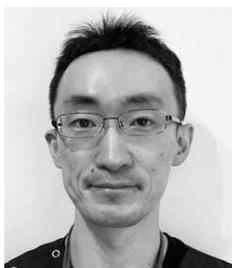
突然ですが、SNSを見ていて面白かった記事をいくつか紹介します。

1. 自動販売機の売切れって実は商品があっても売り切れになっている。つめた～って書いてある飲み物は下から3つは冷えていて一気にそれ以上買われると冷え切っていない物売ることになるので一旦売切れにしている。2時間くらい経ってしっかり冷えたら売切れが消えてまた買えるようになる。
2. 紙に鉛筆で「m.m.m!」「1515151」と書くとサザエさんの外出シーンの曲っぽく聞こえる。
3. 鮭は焼かずに茹でるとめちゃうちゃ美味しい。酒大さじ2と鮭が浸るくらいの水、めんつゆ少しを入れて沸騰したら鮭を入れて7分ほど茹でるだけ。焼くよりふっくらしっとり、で安い鮭も絶品になる。
4. 漢字「菟藟」の覚え方はクサタッククサキュウキュウシャシャシャシャ。
5. 山鳩の「デーデーポッポー」の鳴き方で天気予報がわかる。数回鳴いた終わりが、「ポッポー」で終わると雨。「ポッ」で終わると雨のち曇り。「デーデー」で終わると晴れのち曇り。「デー」で終わると晴れ。

いかがでしたでしょうか。いつもくだらない寄稿で申し訳ありません。頭をまったく使わずに読める記事で頭を緩めて、また患者さんのためにお仕事を頑張ってください。



新入会員紹介



ものがたり診療所

いわ た よし ふみ
岩 田 嘉 文

今年度より、ものがたり診療所に勤務させていただいております、岩田嘉文（いわたよしふみ）と申します。

昨年度まではJCHO高岡ふしき病院内科にて勤務しておりました。在宅医療の勉強をしたいなと初期研修の頃から思っており、中々踏ん切りがつかない状況が続いておりました。富山大学附属病院総合診療イノベーションセンターが、ものがたり在宅医療フェローシップを行なっている事を知り、応募させて頂き今に至ります。

元々は、北海道出身で、専攻医は途中まで北海道でやっておりましたが、御縁もあり専攻医後半（医師5年目）から富山県で勤務させて頂けて富山県に感謝しております。

富山県は、食が非常に美味しく、治安も良く、道路も綺麗でしっかりしてて頭の回転が速く、礼儀正しい人が多いと個人的には思います。

話しはガラッと変わりますが、北海道は元々は他県からの開拓民がほとんどです。北海道開拓をした私の先祖は、聞くところによると、富山県の砺波から北海道に行った開拓民（お寺関係）だったと聞いております。そういう事もあり、実は前々から砺波で働いてみたいと密かに思っていました。こちらも念願叶い感謝しております。ちなみに、北海道の開拓場所はどこかと言いますと、上士幌町という現在でも人口5000人弱の小さな町の様です。私自身は、帯広市出身（道東。北海道の東側）ではあります。

今年から、2年間と決まった期間ですが、至らないところも多々あるかと存じます。また、色々な医療機関に紹介等もさせていただく事もあるかと存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。





あみたに医院

おお くら せい いち ろう
大 倉 誓 一 郎

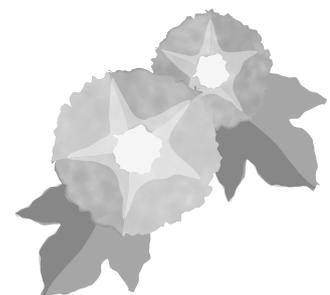
みなさま初めまして、この度砺波医師会に入会しあみたに医院に勤めさせて頂いております大倉誓一郎と申します。よろしくお願いいたします。

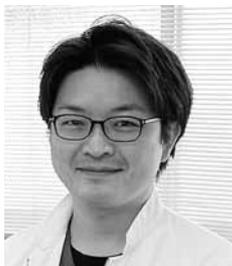
1973年8月6日に金沢市に生まれ、長町小学校、紫錦台中学校、金沢泉丘高校、金沢大学と進学し、医師免許を取得しました。大学時代はバドミントン部に入っていました。バドミントンは卒業後は一度もしていませんので、今やるとアキレス腱が切れそうです。

医師になってからは救急に強くなりたいと思っていたので循環器内科を選択しました。卒業後2年目（1998年）と12年目（2010年）と2度砺波総合病院に勤務させていただきました。2年目の時には網谷先生にご指導頂きました。

2011年から10年間福井済生会病院に勤務し、2021年から3年間福井の鯖江にあるきむら内科医院で院長をさせていただきました。それまで循環器一辺倒だったのですが、膝のヒアルロン酸注射や鶏眼切除から胃カメラ腹部エコーと幅広く診療させていただきました大変勉強になりました。アニサキス除去を胃がん検診のクーポンを使って施行したら、胃がん検診研修会で鯖江市医師会から怒られたのは良い思い出です。

今年の4月からはあみたに医院にお世話になり、網谷先生にご指導頂きながら診療を行っています。診療報酬改定があり、複雑なルールは診療の足を引っ張っていますが、自分の専門領域の患者さんが多く日々楽しく診療しています。先生方にはこれからお世話になる事が多くなると存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。





藤井整形外科医院

ふじ い まさ ふみ
藤 井 正 文

2024年4月より実家の藤井整形外科医院へ入職いたしました藤井正文と申します。砺波医師会の先生方にはいつもご高配を賜り、深く御礼申し上げます。

当院は祖父が1968年に開院し、1997年に父がその後を継ぎました。整形外科医になれと言われたことは一度もなかったように記憶しておりますが、日々患者さんと向き合う祖父や父の背中を見て、自然と整形外科の道を目指すようになっていました。

私自身は2013年に金沢医科大学を卒業、七尾市にある恵寿総合病院で内科と救急をメインとした初期研修をし、2015年に父と同じ金沢医科大学整形外科教室へ入局させていただきました。大学では脊髄脊椎疾患を専門としていたため、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、後縦靭帯骨化症などの脊椎疾患の治療ほか、骨折、脱臼等の外傷治療、膝関節および股関節などの人工関節治療、関節リウマチや骨粗鬆症の治療を含め、多くの診療と手術にたずさわってまいりました。その中で週に一度実家での外来も並行しておこない、地元の空気に癒され、砺波市の地域医療への思いを巡らせるようになりました。

今年で藤井整形外科医院は開院して、56年目となります。当院独自の治療法や様々な治療機械があり、数多くの実績があります。また近年は運動器エコーの発達により、運動器疾患に対する診断とエコーガイド下注射など保存加療の質が飛躍的に向上してきており、リアルタイムで患者さんと病態を共有できるようになりました。私の隣にはエコーが常に稼働しており、積極的に活用した診療を行っております。5月からは電子カルテを導入し、業務効率の向上を図っております。これからも父から医院の継承と新しい医療機器や医療技術、院内リフォームなども検討していき、日常診療や地域の患者さんの利便性向上をはかり、皆様のお役に立てるようにできれば幸いです。

プライベートでは今年市内に新居を建てました。子供は4人(8歳、5歳、3歳、1歳)おり、妻と共に育児や家事に奮闘しております。休日は子供達と一緒に自宅の小さな庭に野菜や花の苗を植えて成長を楽しんでいます。今夏は自宅でプールやアウトドアを計画しております。

最後になりますが、これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

砺波医師会誌 第220号

編集後記

「酒飲みに行きたいなあ、山ちゃん。」亡くなる2日前のことでした。「立山大吟醸、買いに行ってきます。」と一緒にいた看護師が言うと、久しぶりの笑顔でした。治療選択に悩み、迷うこともありました。医師として、患者として、そして、人間として、最期まで、前向きな生き様に教えられること、たくさんありました。今ごろ、「もう1軒、いくぞ。」と、あの世で言われているのではないのでしょうか。大橋雅廣先生、享年83歳。ありがとうございました。

山田 泰士 記

〔広報委員〕 豊田 葉子、津田 博、山田 泰士、澤田 樹佳